

第 5 号
昭和62年 3 月 31 日
阿品台地区
コミュニティをすすめる会
阿品台公民館内
(TEL 39-4338)
阿品台人口世帯数
2 月 28 日 現在
人口 男 5,125 人
10,447 人 女 5,322 人
世帯数 2,922 世帯

阿品台地区が、コミュニ

ティタウンとして発足して

から二年経過いたしました。

盆踊り大会や運動会をは

じめとして、さまざまな催

しや親睦会が活発に行なわ

れるようになりました。

そこで今回は、各町内会

長さんに「阿品台の未来像」

というテーマで御意見を伺

いました。

## 阿品台の将来像

### どんな町に

二丁目町内会長 太田 佳宏

阿品台の将来は山あり、海あり、  
広々とした「ひな段」の様な団地  
で、その中に生活する人々まさに  
廿日市を代表する住宅専用団地だ  
と思います。

現在団地人口一〇〇〇〇人廿日

市町内最大規模のコミュニティ地  
域になりました。

廿日市町では六十三年三月を目  
標として市制移行が決定し、健康

で文化的な人間性豊かな町づくり

を基本に都市基盤整備が推進され

ようとしております。しかし完成さ

## 阿品台の未来像

れた様に見える当団地でも種々と  
問題があります。

そこで今から列記する問題事項

をコミュニティを進める会の六部

で検討出来ないでしょうか？

(一)、市制移行と地域行政

(二)、地域生活と交通問題

(三)、環境整備と保全

(四)、地域福祉

(五)、学校教育と地域社会

内、防災と防犯  
七、商業地区と住  
生活

以上の問題点を部  
会で検討し、出来る  
様にすればコミュニテ  
ィを進める会及び住

民も街づくりに参加出来、自分の  
街を自分たちでつくったと思えて  
古里意識が強くなるのではないし  
ようか。

それが出来れば今から一〇年後  
に市制移行した廿日市町は明るく  
住民の満足する将来性のある街に

なると思えます。

自分の街は自分でつくるを、目  
標に全住民が参加される事をお願  
いいたします。

### 人を見る

県営第三町内会長 金子 元一  
「人を見る」大変難しいことで  
す。心したいものです。

松平楽翁の訓えの一節を要約し  
て、参考に供したいと思えます。  
ひとに「あの人はどうであろうか」  
とたずぬれば、「まことに良い人  
である」と答える。これはまずよ  
い人にちがいない。「然らばあの  
人は」ときくと、「よい人である」  
というこの場合の「よい人」とは、  
よくもわるくもない普通の人とみ  
るべきであろう。ある時、これな  
ら必ずわるい人と答えるであろう  
と思われるものを問うと、ある古  
老はやはり「よい人である」と答  
えた。「どういいうわけでしょうか」  
とその説くところをきくと、「人  
を見るには、まず十中に五つほど  
よいことがあれば、だれでも非常  
によい人と思われなければならぬ。  
十中に一つか二つよいことのある  
ものでも大抵よい人の部類に入る。  
十中の十までわるいところのある  
人でなければ真実わるい人とみる  
ことはできぬ」と答えた云々。  
人を見るには是非ともよいとこ  
ろを拾うようところがけるべきで  
ある。ただし、これは自分が自分  
をみる見方になってはならないの  
ではないでしょうか。

# 豊かな町づくりの 為の提言

阿品台三丁目 関口 禮伸

今日の高度成長化した日本で、しかも、目まぐるしく変化する情報社会と、高齢化の進む社会で、私達は、いったい何を求めることにより人間性豊かに暮らせるかを考える時、私は、二十一世紀に向かって次の三つの項目を満たすことのできる町づくりが住み良い町として誇れるのではないかと考えます。

## 一、生涯教育の推進

生涯教育が叫ばれて久しい今日、阿品台は、幸いにも学校教育施設については整備されているものの、今後、家庭教育、社会教育面でのより一層の推進が必要かと思えます。町内の潜在している学識経験者の人材を掘り起し指導者育成につとめると共に、地域社会に根差した活動を志す必要があります。公民館活動だけでは限界と思われるならば、各町内の集会所を利用しての講演会、学習会を開催する試みも現状打破の一考かと思えます。幅広い知識層の開拓と実践を

進めていただきたいと思えます。

## 二、文化施設の整備

当町内は、新興住宅団地なるがゆえ、郷土文化意識が薄いのは、当然かも知れません。二十一世紀を見通して考えるとやはり当地に、できるだけ早く文化施設的なホールがあればそれを拠点に幅広い活動が生まれ、阿品台の歴史として将来子供達に残せるものが生まれ、と考えると考えます。それ以前に地域住民の豊かなゆとりある生活に大いに潤いを与えるのではないのでしょうか。

## 三、地域福祉の充実

高齢化社会に於いて福祉なくして

は考えられない問題ですが、町の行政だけでは限界もあり、どうしても地域福祉としてのウエイトが今後重要となってきます。

公民館活動等で進められているものの福祉にはほど遠く老人の生きがい対策を考える時、地域住民として自由で誰にも束縛されず地域住民の奉仕によって開放された老人の憩いの場所があればの願いです。住み良い町づくりの将来像として綴ってみましたがその基盤となるのはやはり地域に住む私達住民の一人一人のそれらに対する意識の向上にかかっているのではないのでしょうか。

## 雑 感

四丁目町内会長 秦 喜久造

「ふるさとの山にむかいて言うことなし。ふるさとの山はありがたきかな」。これはかの若山牧水の歌です。私もふるさとを離れてはや三十年の年月がたちました。

現役を退いてこの阿品台の地に居を構えて五年、妻と二人で日々を送っている時、ふと思ひ出されるのは幼い頃、喜々として遊びたわ

むれた「ふるさと」のことです。教室で机を並べて共に学んだ友の顔、厳しかったけれど慈愛に満ちた先生方のお姿、郷土色あふれる色々な催し、いたずらをして叱ら



れベソをかいた事等々、次々と懐かしく思い出されます。

年に一、二度墓参りなどで郷里へ帰ることがあります。「元氣そうじゃのー。少し肥えたんじゃあないの、わしが誰か判るかいのー。元氣がようてええのー」。と何年も会わぬのに楽しく話しあえる。ほんとうに「ふるさと」っていいなあと思えます。

この一年四丁目町内会のお世話をさせていただき、だいぶ顔なじみもできました。朝晩お会いした時、挨拶する人の数も増えました。



阿品台より瀬戸内を望む

大変嬉しく思います。しかしその方々は殆ど昼も家におられるお年寄りの方か、お母さん方です。ご主人方は途中でお会いしても、どなたかわからないという状態です。これは私だけでなく、この阿品台に任んでおられる方、どなたもが感じておられることと思います。

こんな状況の中で、住み良い、楽しい、ぬくもりのある阿品台を築くには、並々ならぬ努力が必要だと思えます。公民館活動、コミュニティを進める会、町内会活動、子供会活動等、それぞれの立場をとおして地域連帯の輪を広げようと努力されていることは、大変結構なことです。

阿品台に住む人皆の心の中に、この地が「ふるさと」と感じられるようになった時、はじめてほんとうの意味での地域連帯社会としての阿品台が形成されるものと思えます。こうなるまでには長い長い年月が必要だと思えます。

今、阿品台の小・中学校で共に学び遊んでいる子供達が、成人した暁に「阿品台って本当にいい所だ『心のふるさと』だ」と思うようになって、はじめて達成されるものと思えます。

るものと思えます。

私達の歩みは遅々としています。が、たゆまぬ努力で生き生きとして楽しい阿品台を創る営みを続けたいものです。

## 廿一世紀の阿品台を 展望して

五丁目町内会長 蜂谷 昭

十年前から県の開発により進められてきたニュータウン阿品台は、「戸数二八〇〇戸・人口一〇、〇〇〇人余り」廿日市の新しい町として着々と発展しつつあります。前に瀬戸の海を眺望し、後ろは小高い山に囲まれ、風光明媚、気候は温暖、公園や街路樹の緑も一年一年と豊かさを増し、実に美しい町並になりつつあります。開発は現在五丁目の二期工事が行われていますが、今年中には完了する予定です。後十数年で二十一世紀を迎えるわけですが、その時の阿品台の姿を想像してみるのも楽しいものです。スーパールの隣に文化ホールが建築され、各種の講演会や映画会が催され、住民の文化教養の向上に役立っていることでしょう。

また、山陽本線阿品駅前には、バスターミナル、商店街、駐車場や駐輪場が完備され、通勤・通学は十分間隔のシティ電車、帰りが遅くなったら奥さんのマイカーによるお迎えと実に快適な生活環境になっていくことと思います。

子供達に「ふるさと」の想い出を残してあげる盆踊りや秋祭りの行事も年々盛大になっていることでしょう。阿品台は「廿日市いやや島で一番の住宅地」ですと、確信をもっていえるのではないでしょう。か。その為にも住民一人一人が心を豊かに持ち、お互いに助け合って二十一世紀に向かって頑張りましょう。

## 町内会の理想は何処に

阿品台北町内会長 倉光 誠一

私がこの廿日市ニュータウン北工区（当時はこう呼ばれていました。）に来て六年目になります。その頃は非常に若々しいはつらつとした感じの町内会で、皆さんが団結して新しい町作りに協力しているという感じでした。防犯灯を設置したり、ゴミの収集場をつくったり、親睦を図るために町内ソフトボール大会をしたり、何よりも大きな年中行事は秋祭りでした。今でこそどの町内会でもやっていますが、当時のニュータウンではユニークな行事で、特にその前夜祭の夜店などの賑わいは、他の町内の子供たちには、珍しがられ、羨ましがられていたようです。

その頃はまだ人口も少なく移り住んだ人たちに若々しいパイオニア精神があったのでしよう。この町内会の人たちは、この団結を誇りにしているように感じられました。この町に来て始めての町内会総会で私は町内会長に選ばれてしまいました。それ以来いつも、私はこの町内は、みんなが一人の例外



阿品台より宮島を望む

もなく、この町に住んで良かったと思える住みよい町内会でありたいと願っています。そして、自然に恵まれ、物質的環境が整備され



てもそれだけで住みよい町にはならない、隣近所の人たちが親しみあい、和みあい、睦みあうそんな温かい精神的つながりのある町内会を夢見たのです。

コンクリートジャングルと言われる都市化や核家族化の進行に伴いどこの町でも、このような精神的つながりが急速に失われて行きつつあります。パッカードという人は、『群衆の中の孤独』という本の中で「自分は確かに多くの人中でもまれていくが、その中の誰とも心のつながりが感じられない。自分は群衆という大海の中にただ一人、木の葉のように漂っている存在のようにはか感じられない。」と述べて現代人の孤立不安を

語っています。

一人暮らしの老人がアパートで死んでいて一週間経って発見された、などという事件も新聞で見ました。四年間に一人の友人も出来なかつたという大学生もいます。隣近所に無関心な傾向は少年非行や、自閉症や、登校拒否などと無関係ではないでしょう。

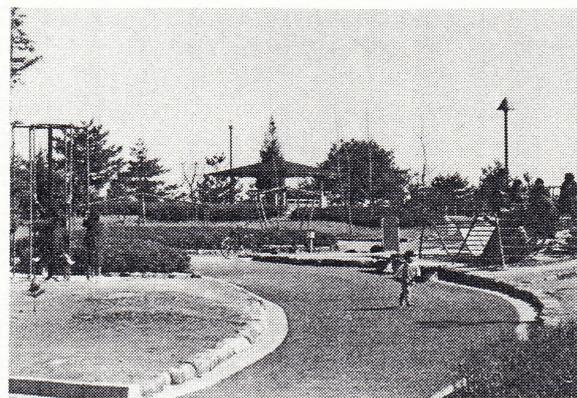
そこで人の心のふれあいを求めてコミュニティー推進の運動などが叫ばれています。コミュニティー作りというのは、隣り近所に住む者同志がお互いに知り合いになり、気心の知れた仲間になるということです。町内会の諸行事。例えば年に三回の大掃除などもそのための大切な機会ですし、秋祭りや町内会運動会などもその良い機会になるはずで

す。それともう一つ、私が大切だと思うのはこの町に住む子供たちの将来のことです。少年時代の楽しい思い出の残る古里を作るのは私たち大人の責任ではないでしょうか。子供たちが生涯、楽しく思い出せる「子供のときを過ごした懐かしい町」でありたいのです。皆さんも思い出して下さい、子供の

頃の故郷を。子供会でもいろいろ工夫しておられますが、町内会のお父さん方も心を配り協力しましょうとか、挨拶運動とか、私は機会ある毎にコミュニティーの推進を呼びかけてきました。しかし、年々逆の方向に進むように感じられます。都市化、核家族化の進行だけではなく、一つの家族の中でも人々の孤立化、自閉化は進行していきつつあります。小学生までが個室を持ち、ファミコンやウォークマンなどという困ったものまで普及しつつあります。このようにして子供は家庭内でも自閉的になっていきます。お父さんは次第に忙しくなってきました。夕食も皆が揃っても家族団らんの機会ではなくなつた家庭もあります。町内会の役員会なども19時に開けば出席はほとんどお母さんです。お父さんは、とても町内会のお付き合いなどに時間を取れるほどひま人ではない。というのが実情かも知れません。また日曜日や祭日でも職場でのお付き合いもあってなかなか多忙です。忙しくても心が亡びることのないようにしたいものです。経済大国といわれても、こん

な働き続けねばならない日本はやはり貧しい国なのでしょう。父親と子供も下宿人のようにたまに会って挨拶する程度になった家庭もあるようです。

また、このような孤立化、自閉化に対応する職業も発達してきま



阿品公園

した。冠婚葬祭も町内会などのお世話にならなくても出来るようなシステムになっています。娯楽も家族単位で計画されます。「隣の人と助け合うような必要はない。自分の家族のことは自分でするかほっといてくれ」と言う感じの人もあるようです。「近所つきあいの煩わしい会社の社宅から逃れ

てやっと越してきたニュータウンでまた町内会に煩わされるのか。もううんざりだ」という人もあるでしょう。定年退職後ののんびりした老後の日々を期待して引越してきた人もあります。

勿論、隣近所の人々との温かい心のふれあいを求める人もあります。そのような多様な人々の集りである町内会のみんなが一人の例外もなくこの町に住んで良かったと言われる住みよい町内会であるにはどうすればよいでしょうか。「町内会の理想は何処に」これが町内会長としての私に与えられている大きな宿題です。

## 一年をかへりみて

阿品ハイッ町内会長

貢 輝海

花とみどりの祭に始まり盆踊大会、秋の祭典、ソフトボール大会で一ケ年が終ろうとしております。私達の町内会は昨年一月に阿品台連合町内会の一員になったばかりのいわばピカピカの一年生というところですよ。

入居者全員廿日市町民になりま

して間もない者ばかりで、西も東もわからないのが現状でございます。その間、連合町内会各地区会長、阿品台コミュニティをすすめる会の皆様の助言を賜りながら連合町内会の諸行事に参加をしております。

当町内会は現在七十二世帯の小町内会でございます。本年中には百世帯を超える予定ですが、集会所がなく、子供会を始め、各会合に公民館を利用するしかなく、一番のなやみは集設備のない不便を痛感致しました。

住民一同早急な建設を要望致しております。六十二年度において建設の運びとなり感謝致して

おります。

日本一人口の多い町廿日市もいよいよ六十三年四月より市制が施行され文化施設等一段と整備充実されると聞いております。

連合町内会一万人の参加する諸行事も又多彩を極める事と思いをす。それらの行事に積極的に参加をし、地域連帯の輪を拡げて行くため、今後皆様方のご指導をいただきながら、子、孫の時代には完全に我が町を故郷となすべく、より良い街づくりに努力したいと考える次第でございます。

町当局、公民館のみなさんのより一層のご指導を切望してやみません。ありがとうございます。

## 阿品台の将来像

E 団地町内会長 土居 繁

阿品台に住んで早くも三年数ヶ月が過ぎ、生活環境といい申し分のない所と感じております。

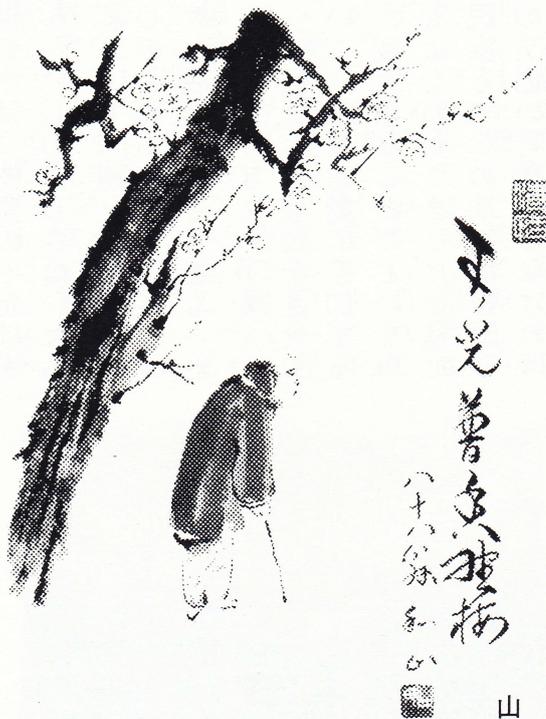
連合町内会で行なわれる夏祭、秋祭と各種行事等の催しにも積極的に参加して来ました。これにより団地内のコミュニケーションを図ることが出来、又他の団地の様子などが分り豊かな人間関係が生まれ、この先も積極的に参加することが大切であると思っております。

自治会を運営して行く上で、特に共有地の樹木維持管理の問題があります。業者に委託のため多額の費用がかかること、又夏場における散水作業の苦勞である。

もう一つとして駐車場が各家庭で一台分のスペースしかないのが今後増えることが予想され、これに対する対策が必要ではないか。

廿日市町は、六十三年を目標に市制づくりに本格的に準備されていますが、特に交通機関の充実で阿品駅の新設を早期実現して頂く事を節に希望します。

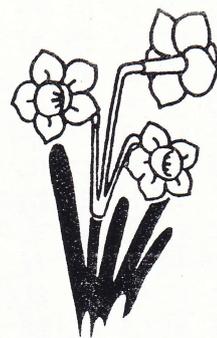
最後に、我が町「阿品台」を我



山肩 和夫画

山肩 和夫画

々の手で、明るく住み良い環境、豊かな人間性、伝統ある町づくり  
に努力しようではありませんか。



## 阿品台のコミュニティ

県警阿品台町内会長

岡本 道彰

瀬戸を展望し、山を背にする阿品台に住み丸二年、実に住みよいところす。しかし、山を切り開いてでき、いろんなところからいろんな人が集合してできた、いわゆる新地域であり、物の価値感がちがっているようです。特に、この地に定住しない転勤族にとっては一時の居所であり、住居となっていないようです。つまりはその時の想い出はつくりたいが歴史まではつくりたくないのです。そんな訳で、我町内会の各種行事への関心、参加率が低くなっているようです。

今の世の中は、物資の不足はありませんが、心の貧しきはいたるところにでています。今必要なのは、「心のふれあい」つまり、コミュニティ活動を、もっともつとすることではないでしょうか。

この一年間、町内会長をさせていただいて、地域活動に参加することは大変なことだという事がとてもよくわかりました。私たち異動民族も、この地に住む限り、阿品台の文化の考察をしなければならぬと痛感しています。

## 一年を振り返って

ほのぼの自治会町内会長 奥田祥二郎

二百七十余世帯からなる「ほのぼの自治会」の会長に就任して早や一年が経とうとしています。

最初は、何をやっていいのか全く解からず、無我夢中で取り組んできました。取り組んだといっても、引き継がれた仕事だけで一杯でした。今までもるで無関心だった、たとえば掲示物一つにしても、夏祭り、秋祭り等の行事にしてもほんの少しですが携わってきたことが、とても勉強になったと



阿品台より瀬戸内を望む

思います。

会長の仕事としても、ほのぼの自治会だけの仕事に終始できたわけではなく、連合町内会の役員としての仕事も数多くありました。

連合町内会の会議に出席したときなど、ほのぼの自治会の代表としての意見を十分に述べることにも出来ず、ただ聞くばかりで他の人の意見に賛同するばかりでした。

というのも、他の自治会の会長は、何年間か続けてやっておられ、それに伴う重みのある考え方を持っておられたからです。

ほのぼの自治会としても、早く経験者が再度自治会の役員として活躍できる日が来たらと思います。

D 団地町内会長 陶山 功

改めて、地区の将来像をえがくのは大変難しい課題であり、常日頃の問題意識の不足を痛感する所である。さて私事になるが、数回の転居の中で今ふり返ってみて生活環境が良かったと感じ印象に残った居住地は一ヶ所であった。今ここ阿品台地区に居住し三年余が経過するが、その環境の良さを改めて感ずる所であり、第二の故郷に値すると考えている。この故郷の将来を考えると、良い所はそのまま維持向上させる事である。即ち今の生活環境をいかに将来にむけて引き継ぎ発展させていくかである。生活環境はともすると悪化するケースがある。地区全員の英知と努力、そして協力のもとに確実に保護したいものである。阿品台地区をより発展させ将来を展望する時、交通機関の利便性はまだまだ充実を要する所である。一説によると、地域の発展は都市を中心に西方向へのびる傾向があり、

またその事実が認められている。

当地区はまさしくその地域に属する所であり、今後さらに大きく開発されるであろう。開発の進行とともに住民は増え、今でも課題となっている交通機関の充実、公共施設の充実等々の諸問題解決に向け邁進する事が必要であろう。この為には、一地区にとらわれる事なく地域全体の融和と、協同活動が大切であると感ずる所である。

## 法面の有効利用

タウンB 一住民

私の任んでいる北区は、ちょっとした丘にある為、南側にかなりの法面がある。そこは雑草におおわれていて、決して美しい風景ではない。その面をなんとか有効に利用できないものであろうか……坂道を登り下りする際、時々考える。

私の思いつきのひとつは、桜・サツキ等の花木を植える。もうひとつは、少し大げさになるが、太陽熱を利用したソーラーパネルを取り付け、冷暖房、給湯用のエネルギーとして利用する。

こんな夢はいかが。

この一年、

こんな行事が

ありました。

春・春まつり(連合町内会)

町内対抗ソフトボール大会、

運動会(二丁目、二丁目、北区)

ソフトボール大会(タウンB・I)

宮島ハイキング(タウンF)

夏・盆おどり大会(連合町内会)

秋・自治会まつり(俱営三)

運動会(俱営二)

敬老会

冬・とんど祭り(二丁目、二丁目)

餅つき大会(三丁目、タウンC)

互礼会(連合町内会)



# 各部報告

〃子供達とのふれあい〃

青少年部 諸石 泰

私達の育った頃と違って、今の子供達は随分制約された環境の中の生活を強いられている。このことに関しては多くのご意見が報じられています。遊びの中で子供は成長していくという観点からみますと、集団で遊んでいる光景もあまり目に入らない様です。私事で恐縮ですが、これまでに数回けん玉の指導に行った先の子供達はけん玉の魔力に引きつけられ、個の楽しみから集団での競い合いや、向上心・研究心を自然に会得していつてるようです。その過程で一段一段向上し完成する技に努力の喜びを体得し感激しているのです。今私はけん玉に限らず、もっと多くの子供達に遊びの中で目を輝かせることができる機会や環境を与えることが急務なのではな

婦人部 手嶋 恵

まわってくる順番でコミュニティの役員になり婦人部があたったものの、何もかも初めてづくしの一年でした。まず敬老会、こんな大勢のご老人が阿品台にいらしたのかと思うほど公民館にぎわいました。転勤族で核家族の私にとって、おじいちゃんおばあちゃんも多少なりともふれあわれた貴重な一日でした。次は公民館祭、思いのほかたくさんの人達が色々なクラブで活動され、活気に満ちていました。敬老会の時同様、地元における公民館の重要な役割がよくわかりました。そして、事あ

るごとに話し合いを開かれる地区

世話役の方や、民生委員さん、町  
会議員さん、公民館長さん他の方  
々のふだん人目につかない働きが、  
大きな原動力であるのを知りまし  
た。婦人部内でもお勤めや小さな  
お子さんづれが多かったにもかか  
わらず、心よく手伝いを受けて下  
さる方が多く、人の誠意にふれる  
ことの多かった貴重な一年を体験  
させてもらいました。

## 青少年健全育成に

### 剣道の勧め

林 邑一

当阿品台地区に昭和五十八年当  
時の連合町内会長さんや町の社会  
教育課の御指導、御協力を得て、  
剣道スポーツ少年団が創設され、  
本年五月で五周年を迎えました。  
そのとき入会した一年生も四年間  
の修業で、すっかりたくましい少  
年剣士になりました。

剣道は格闘技ですが、相手の人  
格を認め、指導してもらおう心で礼  
儀正しく、謙虚に、公正にベスト  
をつくす態度が大切で、青少年の  
健全育成に大変役立つスポーツと

言えましょう。

スポーツには外来の優れたもの  
も多いのですが、日本民族が長い  
歴史の過程で積みあげてきた遺産  
ともいえるべき剣道は、老若男女誰  
でもでき、特に生涯スポーツとし  
て優れていることは多くの皆さん  
が実証されています。

当スポーツ少年団では、本年度  
も会員を募集しています。体力を  
つけ、礼儀正しく、集中力のある  
子供さんを育てる一環として、入  
会をお勧めします。

募集人員 小学一年から中学ま  
で、若干名

申込〆切 昭和六十二年四月三  
十日まで

詳しいことは左記にお問い合わせ  
下さい。

阿品台四丁目七―十四

(TEL) 三九一七七八二

阿品台剣道スポーツ少年団剣和  
会事務局

林 邑一方



## 広報部活動

広報部長 土居 繁

広報部として一年間の活動が何  
であったか、振り返ってみますと  
年二回「ふれあい」を発行する事  
でした。「ふれあい」を発行する  
ため、広報部会を開くことを連絡  
網で伝達し集まって頂くのですが  
部員の皆さん全員が顔を合わす事  
がなく、せいぜい集まっても七、  
八人という現状です。

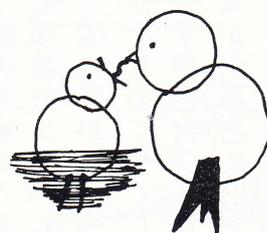
まずテーマを決め、どの様に原  
稿を集めるか、公民館だよりに原  
稿募集の依頼をするのですが、  
思うように皆さんからの投稿がな  
く四苦八苦している現状です。依  
頼し集まった原稿を基に原稿の点  
検、編集、仮印刷、そして校正と  
段階を重ね、いよいよ本印刷へ、  
出来上がった「ふれあい」を手に  
した時の充実感は今時者でない  
わからないと思います。

広報部として今後の問題は、な  
んと言ってもより多くの原稿依頼  
投稿としますので、皆様方の積  
極的なご支援を宜しくお願い致し  
ます。

## 原稿募集

投稿を募集します。

私達の阿品台を文化の葦り高い健  
康で明るい住みよい町作りにする  
ため皆さんのご意見をご投稿下さ  
い。随筆・俳句・川柳・短歌等も  
お寄せ下さい。



## 編集後記

「ふれあい」第五号をお届けし  
ます。この一年間、事務局長さん  
皆様方の御支援とご協力により、  
広報部の活動が出来ました事を感  
謝しております。

次号からは新しい委員による、  
新しい発想のもと益々充実したも  
のになりますよう祈念致します。  
倍旧の御声援、御愛読を御願ひ申  
し上げます。